




能登半島地震から10か月

—◇—
-- 酪農の現状と復興への課題 --

石川県能登町 西出牧場 西出 穰



西出牧場

--- Nishide Dairy Farm ---
Since 1956

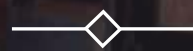
牧場の概要



- ・ 1956年 石川県松任市（現 白山市）にて開業
- ・ 1978年 石川県能都町（現 能登町）へ移転
- ・ 搾乳牛30頭 育成牛約20頭 肉用牛約10頭
- ・ DeLaval デルプロファームマネージャー北陸初導入
 - ・ 年間出荷乳量 約25万kg
 - ・ 草地面積 12ha (+4ha)
 - ・ 酪農教育ファーム認証牧場
 - ・ 北陸酪連乳質改善表彰
(平成30年度～令和5年度)



令和6年1月1日16時10分 能登半島地震発生



震災発生直後 (西出牧場 自宅)

地域全体で 甚大な被害



- ・ 停電断水の長期化や、道路損壊、畜舎全壊など様々な理由で営農再開困難な畜産農家も
- ・ 水稲農家では水路や畔、農道の損傷などで耕作できない農地も



停電と断水から 牛を守る



→能登町神野地区の酪農家

2時間程度で停電解消

上水道断水は4月中旬解消

→能登町内浦地区の酪農家

停電解消まで6日

上水道断水は1月下旬解消

元日の地震の為、1月5日まで
発電機のレンタルができない



牧場の災害への備え

【停電への対策】

- ・ 停電に備えて発電機の導入を計画（R6年度計画）
- ・ 発電機の導入までの間、搾乳不能への対策として使い捨ての導乳管を在庫
- ・ 非常時の100V電源確保の為PHEV車をH29年に導入

【断水への対策】

- ・ 酪農家共同水道（地下水利用）と、町上水道の2系統を牧場敷地内へ引き込み一方が断水しても配管を切り替え水の早期復旧を目指すフェールセーフ機能を持たせた





神野酪農共同
水道施設

柴野立太牧場

西出牧場

Goole




水道被害の状況

— 共同水道 — 町上水道 — 水道管破損箇所

- ・ 共同水道損傷 6 カ所… 1 月 7 日復旧
- ・ 町上水道損傷 1 カ所… 4 月 1 7 日復旧

共同水道or町上水道いずれかの断水時に補う
フェールセーフ機能…震災で喪失



生乳出荷再開まで

- 1月1日 16：10 能登半島地震 発災
同日 夜 停電解消 搾乳再開
1月2日 午前 **生乳廃棄開始**
1月3日 共同水道自力修復に着手
1月7日 18：30 **共同水道仮復旧**
1月10日 集乳車試運転（検体提出）
1月11日 不合格（細菌数・風味異常）
1月12日 再検査→不合格（風味異常・細菌数）
※1/10の検査に合格した柴野牧場で**出荷再開**
（震災後能登で最初の出荷再開）
1月13日 再々検査→合格
1月14日 **西出牧場 出荷再開**

—◇—
9月20日に穴水1戸出荷再開するも、
本日時点でまだ全ての酪農家が出荷再開できていない。



西出牧場の被害

--建物被害--

搾乳牛舎…準半壊

育成牛舎…**全壊**

--農地被害--

地割れ、陥没、凹凸、崩落、

地下水噴出による泥濘化、
陥没や地形変化による排水不良

--その他被害--

農機、機械設備、生乳廃棄約9100kg

家畜被害2頭（外傷）





建物や農機などの修繕再取得 農地災害復旧の現状



- ・ 農機の修繕再取得…メーカーが国内在庫を被災地へ優先的に割り当て
- ・ 建物の修繕再取得…一般住宅など被害が多いため見積もりを取ることすら困難
 - ・ 農地の災害復旧工事…測量が行われたが着工までは至らない


農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律施行令

一 農地については、耕土の流出・土砂の流入、埋没、沈下、隆起又はき裂で、これにより当該農地での耕作の継続を不可能又は著しく困難とするものによつて必要を生じた事業

- ・ 作付け不能な程の農地の崩落や地割れを直してほしい →補助対象
- ・ 地盤沈下などによる凸凹ができた牧草地を均平化してほしい →補助対象外
- ・ 地下水の噴出や地盤沈下による泥濘対策に暗渠を敷設してほしい →補助対象外



コマツ農業用ブルドーザーを貸してもらい自力復旧を目指すが・・・



—◇—
能登半島豪雨により地盤沈下した牧草地は水没
令和6年9月22日



—◇—
牧草地がすり鉢状になったことで雨水が抜けにくく
機械が埋まってしまう
管理作業に深刻な影響を与えている

能登の酪農 (奥能登2市2町)

昭和37年のピーク時には県内で2590戸、私の就農時 (H23)は65戸の酪農家があった

(11月1日時点では県内29戸)

震災前 (2023年11月)

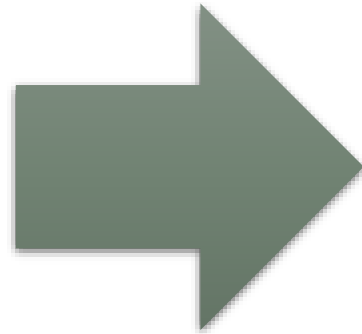
酪農家戸数

能登町…6戸

珠洲市…5戸

穴水町…1戸

輪島市…0戸



震災後 (2024年11月)

酪農家戸数

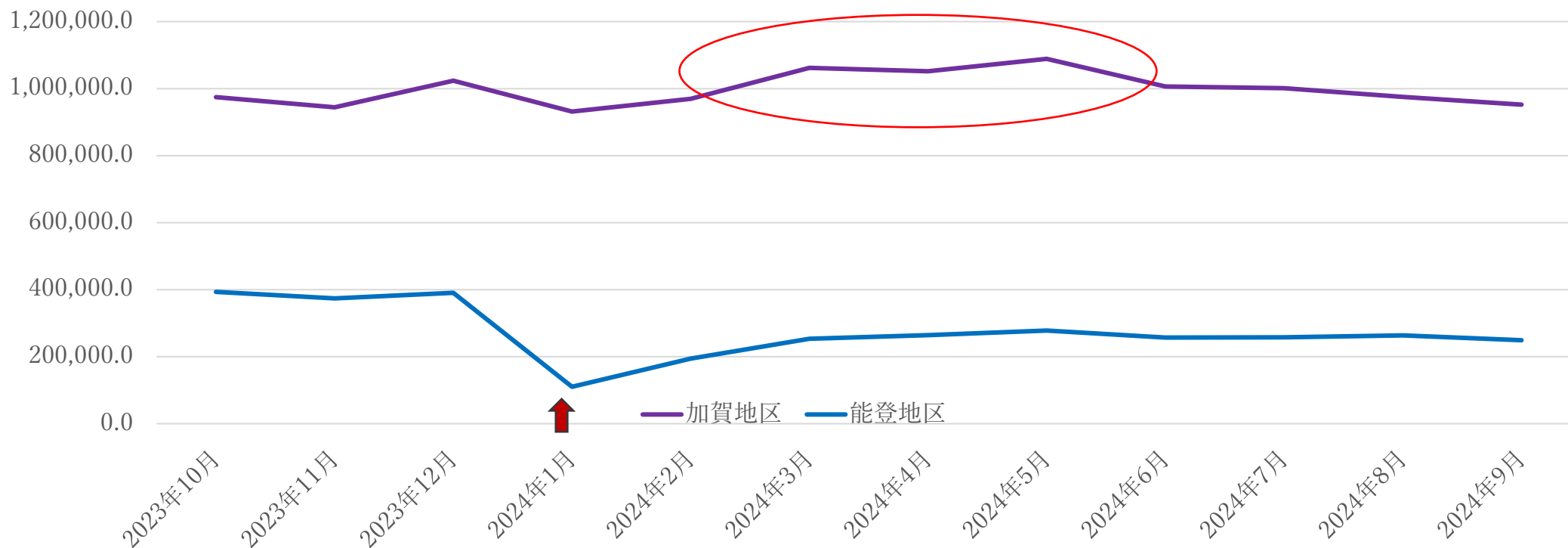
能登町…5戸 (※11月末で4戸に減少予定)

珠洲市…4戸 (※出荷戸数 3戸)

穴水町…1戸

輪島市…0戸

出荷乳量の推移 (石川県酪農業協同組合)



- ・ 能登半島地震の影響により令和6年1月は大幅な減産となった。特に能登地区の被害は甚大で前年同月の1/4まで減少した
- ・ 2月以降の加賀地区が増産しているのは、能登地区の乳用牛を引き取り、生乳出荷していた事が要因である。
- ・ 2月以降、能登地区の生乳生産量は回復傾向にあったが、9月の大雨の影響により珠洲市の酪農家が被害を受けたため生乳生産量は減少した。

離農・生産量減少が関連産業に与える影響

- ・ 飼料関係 飼料販売量の減少
- ・ 酪農ヘルパー 出役機会の減少
- ・ 獣医師 診療業務の減少
- ・ 酪農協他関連団体 販売手数料の減少
- ・ 集乳業者、運送業者 輸送量の減少 ルートの統廃合

「乳」に関わる雇用の縮小



県産牛乳使用商品の欠品（消費者への影響として）

生乳運送業者は 死活問題



2020年時点能登方面 3コース

珠洲A 珠洲B 1B (酪農家限定)

震災後能登方面 1コース

~~珠洲A—珠洲B~~ 1B (奥能登酪農家限定)



酪農家の減少により集乳コースが減り運行できない集乳車

運送業界の2024年問題もあり、能登の全酪農家を周るルートでは
1運行2名の運転手が必要となる

復興に向けた課題



能登らしい
酪農の復興とは
関連産業との共存共栄

・酪農家戸数

・生乳生産量

生乳生産量を増やすために

少数のメガファームか
多数の小規模酪農家か

地理的特性と能登酪農の特徴



能登酪農の特徴



- ・ 10ha~20ha程度の牧草地が牧場の周辺に確保されている
- ・ 配合飼料は高いが、全ての酪農家が自給飼料を生産しているため、輸入牧草の購入は最小限で済むため安定的な経営が可能
- ・ 若手酪農家も多く、12戸中7戸が30代40代の酪農家





能登で酪農が成り立たなくなる 危機感

持続可能な酪農を続けるため、関連産業と
共存共栄をはかるには
メガファームしか手段はないのか？

課題

- ・ 牧草地管理
 - ・ 牧場と農地との移動
 - ・ 家畜伝染病対策
 - ・ 堆肥の問題
 - ・ 雇用経験ゼロからのスタート
- 等々・・・





大規模化は効率的でスケールメリットもあるが
輸入飼料に依存した酪農を能登で行う事に違和感を感じる



～国産飼料増産への取り組み～
被災した水田の畑地化による
デントコーンの栽培は可能か

離農により作付けされない
水田の活用法として

水稻に比べ手間のかかりにくい
デントコーンを栽培してもらい
飼料の大部分を地域で自給でき
るような取り組みが必要では



能登らしい酪農の復興とは

少数のメガファームか
多数の小規模酪農家か

今は何が答えかわからない



消費者から求められる能登産牛乳へのニーズに応えるだけの生乳生産ができること。

営農を続けるために必要不可欠な関連産業や、牛乳、乳製品のサプライチェーンに属する誰もが安定的に利益を得て持続可能で発展的な経営をすること。

能登に酪農が必要と言ってもらえるようになること。

ご清聴ありがとうございました

